

MSが修正プログラム

閲覧ソフト欠陥対応 無償配布始める

【ニューヨーク共同】米マイクロソフト(MS)は1日、欠陥が見つかった閲覧ソフト「インターネット・エクスプローラー(IE)」について、ウイルスなどへの安全性を高める修正プログラムの緊急配布を無償で始めた。4月初めにサポートを終えた基本ソフト(OS)「ウィンドウズXP」の利用者にも特例として配布した。

米政府がIEの一時使用 公庁や企業が使用を一齐に中止を呼び掛け、日本の官 見合わせるなど影響が広が

無償配布のプログラムで欠陥を修正

(米西部時間5月1日午前(日本時間2日未明)開始)

マイクロソフト閲覧ソフトの欠陥

「インターネット・エクスプローラー」

バージョン 6~11

不審なアドレス、
不改ざんされた
ホームページ

閲覧

コンピュータ
ウイルスに感染

乗っ取り

悪意のある
第三者の
サーバー

パスワード
などの個人
情報盗難

ったが、MSの異例の緊急措置で問題は収束に向かいそうだった。ただ、ネットを悪用するハッカーらの動きが収まるわけではなく、利用者は安全性への配慮が引き続き必要になる。

パソコンなどの設定がプログラムを受け入れる「自動更新」になっていない場合はMSのサイトから手動で取り込む必要がある。日本マイクロソフト(東京)も公式ホームページで同様の内容を告知、利用者に早期の対応を呼び掛けている。

MSはウィンドウズXPのサポートを4月9日(日本時間)に終了した。終了

から問もないことを理由に、特例の適用を決めたとしている。

ただ「現在直面しているセキュリティ上の脅威から、古いOSの利用者を守る」(担当者)と説明し、XPの後継OSであるウィンドウズ7や8・1などを導入するよう利用者に求めた。

IEをめぐるっては、米国土安全保障省が4月28日、

ハッカー攻撃にさらされる危険があるとして使用しないよう警告、代替ソフトの使用を呼び掛けた。日本の総務省も全国の自治体や各省庁に注意喚起していた。